



●内側（三つ折り）イメージ



大分県

大分県は、九州の北東部に位置し、北西を福岡県、南西を熊本県、南部を宮崎県と接しています。人口は約119万人（平成23年10月1日現在）で、14市3町1村の計18市町村で構成されています。面積は約6,340km²（平成23年10月1日現在）で、県土は東西約119km、南北約106kmに及んでいます。気候は温暖で一年を通して過ごしやすい、西は九州本土最遠端の中岳を有するくじゅう連山から、東は太平洋に面する九州最東端の高嶺崎まで、非常にバラエティに富んだ景上を有するとともに、水産資源の豊富な豊後水道に面しています。

大分県章
大分県の「大」の漢字を円形に図案化したもので、明治44年に制定されました。

大分県の鳥（めじろ）
県の鳥獣保護審議会（ついでに、昭和41年鳥獣保護法改正に伴い改称）により、高嶺崎及び5町市町村会館（2ヶ所）を主とする、鳥獣保護審議会の意見を聴いて昭和41年に制定されました。大分県の鳥獣保護審議会が制定しました。

大分県の花（豊後梅）
豊後梅は、NIFKが第29回「放送記念日に『郷土の花』として選定（昭和29年4月1日）、その後大分県林業振興委員会によって県の花として国産マークに採択し、以後県花として認められています。県花については、昭和41年に豊後梅を県花として制定しました。

500円ハイカラー・クラッド貨幣

ハイカラー・クラッド貨幣とは、2種類の異なる金属を組み合わせる「ハイカラー」技術と、合金を異なる種類の金属液で挟み込む「クラッド」技術を組み合わせたものです。

（大分県）表裏「日者壽在仏」

○ 富家・日作權造（大日如来）をデザインしています。※日作權造は、通称日作権造。平安時代後期から鎌倉時代に作られたとされる存仏部。平成7年には、藤原氏の金貨、影響を受けて九州で初めて、59枚が国宝に指定された。石仏（石造りの佛）の造り、地名によって本寺有仏部1種（富家・日作権造）石仏、日作権造、山王山（徳本の石仏）石仏、石山（ふるその）石仏と名付けられており、今回のデザインの大日如来は、古く石仏のもの。

500円ハイカラー・クラッド貨幣の概要	
額面	500円
材質	銅合金・黄銅、白銅及び鋼
品位	銅75%、黄銅13.5%、銅合金13.5%
重量	7.1グラム
直径	25.8ミリメートル
その他特徴	異形割の字、豊後梅

（各都道府県共通）
裏面「古銭のイメージ」